

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	CADトレーニング						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	建築工学コース:選択、建築コース:選択、デザインコース:選択必修						
担当者	小池博・嶋崎浩樹						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・2次元汎用CADソフト「Jw-cad」を活用する能力を習得する。(A4) ・図面、パースなど基礎的な表現技術を身に付ける。(A7) ・3次元空間を図面などのドローイングで表現しプレゼンテーションする能力を修得する。(B6) 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、基本操作</p> <p>第2回：レイヤ、線属性の説明</p> <p>第3回：レイヤの使い分け、属性取得・属性変更、線・矩形・円弧の練習、編集操作1</p> <p>第4回：矩形・円弧・文字の練習、編集操作2、編集操作3</p> <p>第5回：基本操作のまとめ 第1課題：木造戸建て住宅の基本図を描く</p> <p>第6回：平面図の作成 その1</p> <p>第7回：平面図の作成 その2</p> <p>第8回：断面図の作成</p> <p>第9回：立面図の作成</p> <p>第10回：立体図（アクソメ）の作成・第1課題提出（30点） 第2課題：私の部屋の実測とプレゼンテーション</p> <p>第11回：平面図の作成 その1</p> <p>第12回：平面図の作成 その2・断面展開図の作成 その1</p> <p>第13回：断面展開図の作成 その2</p> <p>第14回：立体図（2.5D）の作成</p> <p>第15回：コラージュによる立体図の装飾・第2課題提出（40点）</p> <p>※演習点は授業時における理解度、作業進捗状況、受講態度を総合評価。（30点）</p> <p>※他人の作品を盗用（コピー）したことが発覚した場合、その時点で不合格とする。</p>						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	70% 30%	実技 部外評価 プレゼンテーション	計	100%		
授業到達目標の達成度	履修登録者104名のうち、途中退学1名、休学1名、結果本科目に定期試験は無いが、定期試験受験者数を102名とした。そのうち98名が合格し、合格率は96%であった。不合格となった4名のうち、2名は出席数0、1名は出席数4と、ほぼ授業放棄状態であり、残りの1名に関しても、教科書を忘れることも多く、授業に大きく後れを取っており、課題もほとんど提出できずにいた。従って、真面目に講義を受けていた学生に関して言えば、100%合格しており、目標を達成することができた。						
反省点	講義自体の反省点ではないが、今年度は履修登録者が100名を越えたため、例年使用していた教室のキャバを越えてしまった。急遽、通常履修組みと再履修組みの2クラスに分け、2名の教員がそれぞれ1クラスずつ受け持つこととなった。その結果、講義内容自体に違いはなかったが、指導方法にやや偏りが生じた。						
来年度の計画	来年度の新カリより、本科目の開講時期は2年の前期となるため、来年度は非開講となる。ただし、2年の前期開講となると、2年の前期で行なう建築設計Iを履修している学生が履修することになるため、そこで手書きで描いた図面を清書させるなど、課題内容の見直しが再来年度までに必要と思われる。また、長期的にはCG、3Dまで通した授業の構築を目指したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	概ね、好意的な評価を得られたが、モニターの見づらさを上げた学生が数名いた。今年度より、ターミナル室1、2、3のコンピューターが入れ替わり、それまで2つ一組で、その間に教員の操作するが面が見られるモニターが設置されていたが、それが無くなり、そのかわり前方のスクリーンだけとなった。そのため、細かいマウスの動きなどが見づらくなってしまった。これに対してはTAの数を増やすなど、マンパワーで解決するしか方法がないように思われる。(TAの評判は良好であり、かつ、現時点でも教える人の数を増やして欲しいとの要望あり。)相変わらずスピードに対しては早いと言うコメントもあり、個人の能力差の出るスキルの講義ならではの難しさを痛感した。						
履修登録者数	104名	定期試験 受験者数	102名	合格者数	98名	合格率	96%